

学校教育目標	夢を追い、自らを高めよ ー学べ・磨け・輝けー
目指す学校像	○生徒と教師の笑顔があふれる学校 ○居場所のある学校
重点目標	1 「学び方」と「教え方」を両輪とした授業改革でエージェンシーを育成 2 「寄り添い 導き 見届ける」教育で一人ひとりのWell-beingを実現 3 地域を大切にし、地域と共に成長し、地域に貢献できる生徒の育成 4 安心・安全できれいな学校づくりと適正な予算管理 5 「自ら学び、共に高め合う」教職員集団の育成と一人ひとりに応じた働き方改革

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学校自己評価								学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○市学習状況調査では、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」及び「授業では、自分に合った教え方、教材、時間になっている」の項目に肯定的な回答をした生徒の割合について、市平均と比べ、低い傾向が見られる。 (課題) ○文章やグラフなどのデータを踏まえ、自分の考えたことを自分の言葉で表現することが課題である。	学習習慣の定着	①問題演習や小テストなどの実施及びそれらの結果を分析し、授業改善につなげる。 ②授業や家庭学習について、自分の学び方を振り返る機会を設定し、自分に合った学び方を見つけられるようにする。	①市学習状況調査において、「授業がよく分かる」の項目に肯定的な回答をした生徒の割合が増加したか。 ②本校独自の生徒調査において、「自分に合った学び方を見つけた」の項目に肯定的な回答をした生徒の割合が80%以上になったか。					
		学習意欲の向上を目指した授業改善	①各教科等において、自分の考えたことを自分の言葉で表現する機会を確保する。 ②生徒が自分に適した学びで取り組む学習環境を意識した授業改善を行う。	①市学習状況調査において、「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」の項目に肯定的な回答をした生徒の割合が増加したか。					
2	(現状) ○市学習状況調査では、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」及び「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」の項目に肯定的な回答をした生徒の割合は、市平均を上回っている。 (課題) ○指示された活動等には、丁寧に粘り強く取り組める生徒が多い一方で、自分で考え、判断し行動することに苦手意識をもつ生徒が少なくない。 ○自分から悩み事を相談することにためらいを感じる生徒が少なくない。	生徒一人ひとりの自己肯定感を高める教育の推進	①生徒会を核とする生徒発、生徒着のいじめ防止対策、校則見直し、あいさつ運動等を実践し、保護者及び地域へ発信する。 ②学校・学年行事、学級活動を通して、一人ひとりの生徒に「伸びる」チャンスを与え、達成感を味わわせる活動を創出する。	①市学習状況調査において、教員からの支援に関する項目に肯定的な回答割合が90%以上であったか。 ②学校自己評価に係る生徒評価において、「学校生活は楽しく充実している」項目に肯定的な回答が90%以上となったか。					
		生徒が安心して学べる教育環境の充実	①スクールダッシュボード「おはようメータ」を活用し、心と体の健康状態をきめ細やかな把握に努める。 ②Solaの一む(コミュニティルーム)を適切に運用し、SC・さわやか相談員・SSW・関係諸機関と連携した心のサポート体制を強化する。	①市学習状況調査において、「困ったり、悩んだりしたときには、誰かに相談しようと思う」の項目に肯定的な回答割合が増加したか。 ②学校自己評価に係る保護者評価項目「お子さんは、自分の感情をコントロールしている」の肯定的な回答割合が増加したか。					
3	(現状) ○市学習状況調査では、「今住んでいる地域の行事に参加している」の項目に肯定的な回答をした生徒の割合は、市平均を上回っている。 ○市学習状況調査では、「この1年間に、ボランティア活動に参加したことがある」の項目に肯定的な回答をした生徒の割合に改善が見られる。 (課題) ○中学生として、地域を支える側の人材に成り得るという意識を醸成していくが課題である。	地域と関わる具体的な取組の実施	①学校地域連携コーディネーターを核とした地域交流及び地域貢献活動を実施する。	①一年間にボランティアに参加した生徒の割合が向上したか。 ②地域等からのボランティア申請団体の数が増加したか。					
		課題解決のための話し合い及び情報発信	①学校運営協議会において、生徒と委員が直接意見交換できる場を設定し、生徒の提案をもとに意見交換を行うとともに、その内容についての情報発信の充実を図る。	①生徒と委員の話し合いで意見交換を行うことができたか。 ②コミュニティ・スクール通信を学校運営協議会後、毎回発行することができたか。					
4	(現状) ○学校自己評価に係る保護者評価項目「安心・安全な生活環境を提供」の肯定的な回答割合は89%であった。 ○市学習状況調査では、「この1年間に、ボランティア活動に参加したことがある」の項目に肯定的な回答をした生徒の割合に改善が見られる。 (課題) ○中学生として、地域を支える側の人材に成り得るという意識を醸成していくが課題である。	安心で安全な施設管理	①点検表に基づく安全点検を年11回実施し、危険個所の早期発見及び修繕等を迅速に行う。 ②意図的・計画的な校内巡視を毎日を行う。	①学校自己評価に係る保護者評価項目「安心・安全な生活環境を提供」の肯定的な回答割合が維持・増加したか。 ②修繕の必要な個所について、速やかに多王することができたか。					
		適正な予算の管理	①年間を見通した予算計画を立案する。 ②予算執行状況等について、定期的に情報共有し、効果的な予算執行を行う。	①学校自己評価に係る教職員評価項目「予算の有効活用」の得点が3.00/4以上になったか。					
5	(現状) ○生徒の笑顔は、教師が笑顔で働ける職場でこそ生まれるとの考えに立ち、教員が働きやすい環境づくりに取り組んできた。昨年度の学校評価では「分掌組織は十分に機能し、バランスが取れていた」において肯定的な回答は90%であった。 (課題) ○経験年数の浅い教員が増えたことにより、教育水準の維持・向上を図るための研修体制を構築し、運用していく必要がある。	働きやすい職場づくりの推進	①校務分掌の平準化を図り、業務の遂行状況を定期的に把握・調整を行う。 ②各種会議資料及び保護者配付文書の電子化(スクリレ)を進め、印刷製本業務の削減を図る。	①学校自己評価における教職員評価項目「分掌の偏りが軽減」「分掌の種類や数が適切」の得点が向上したかな回答の割合が90%以上となったか。					
		教職員一人ひとりに応じた研修の奨励	①研修受講履歴システム及び教員研修プラットフォームを活用する。 ②対話による研修受講奨励を行い、自身の資質・向上に応じた研修に取り組む。	①教員研修プラットフォームを活用した教職員が増加したか。 ②対話による研修受講奨励により、一人ひとりが必要な研修を把握することができたか。					

